

## 令和3年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

「次代の地域社会における良識ある担い手」を育成するため、生徒一人ひとりに次の4つの力を育み、生徒の自己実現を支援する総合学科高校をめざす。

- 1 自らが学び、考え、表現し、主体的に行動できる力
- 2 将来の目標を具体的に設定し、それに向かって努力する力
- 3 人や地域とのつながりを大切にし、地域社会の発展に貢献できる力
- 4 豊かな人権感覚を身に付け、より良い人間関係を築くことのできる力

## 2 中期的目標

- 1 「確かな学力」の育成
  - (1) 生徒が授業内容に興味・関心を持ち、「わかる」授業づくりを進めるとともに、基礎学力を定着させ、自ら学習する態度を身に付けさせる。また、観点別評価を取り入れた授業展開について試行を実施する。
    - ア 教務部と首席を核に、公開授業、研究授業及び授業アンケート等を活用した授業改善に組織的に取り組むとともに、観点別評価の試行を行う。
      - ※ 学校教育自己診断(生徒)の「授業はわかりやすい」の肯定率を令和5年度で85%以上。(H30 67.9%、R1 74.6%、R2 76.9%)
    - イ 基礎的・基本的な知識・技能の定着をめざし授業の工夫・改善を図るとともに、観点別評価試行に取り組み、定期的な校内研修で課題の共有、改善を図る。
      - ※ 本校独自のアンケートで、「知識や理解力が身についた」の肯定率を令和5年度で90%以上(H30 68.2%、R1 73%、R2 87.7%)。
  - (2) 「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざし、自分で調べ、考え、表現・発表する力を育てる授業を行う。
    - ア 「産業社会と人間」「総合的な探求の時間(GS)」の取組みと各教科の指導を連携させて、グループワーク等の協同学習を推進し、生徒の学習活動を充実させることにより、生徒が自ら学習する態度を育む。
      - ※ 学校教育自己診断(生徒)の「授業では、自分の考えをまとめたり、発表する機会がある」の肯定率が令和5年度で80%以上。(H30 53.3%、R1 64.7%、R2 71.8%)
      - ※ 本校独自のアンケートで、「考える力や表現する力が身についた」の肯定率を令和5年度で90%以上。(H30 60.8%、R1 73%、R2 88.7%)
    - イ GSの取組みと教科学習の中で、発表する機会を設け、段階的な実施により、生徒のプレゼンテーション能力を高め、課題研究の発表会の充実を図る。
      - ※ 本校独自のアンケートで、「プレゼンテーション能力が身についた」の肯定率を令和5年度で85%以上。(H30 50.0%、R1 64%、R2 81.8%)
- 2 将来の目標に向かって努力する生徒の育成
  - (1) 理解・納得に基づく生活習慣の形成及び規範意識の醸成とともに、高校生として望ましい態度とマナーを育成する。
    - ア 遅刻等の状況を改善するとともに、授業規律を確立させる。
      - ※ 遅刻件数を令和5年度には4,500回以下とし、それ以降も毎年減少させる。(H30 4,826回、R1 5,985回、R2 6,834回)
      - ※ 学校教育自己診断(生徒)の「授業では騒いだり私語したりする生徒はほとんどいない」の肯定率が令和5年度で50%以上。(H30 27.3%、R1 30.6%、R2 36.2%)
    - イ 「ダメなものダメ」の指導方針を教職員全体で共有しつつ、画一的に罰則を与える指導ではなく、ダメな理由を適切に理解させられるよう、個々の生徒の課題を踏まえ、生徒や保護者の思いをくみ取った、対話を重視した生徒指導を行う。
      - ※ 学校教育自己診断(生徒)の「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生が多い」の肯定率が令和5年度で85%以上(H30 63.2%、R1 70.0%、R2 81.6%)、
      - 「生活規律や学習規律などの基本的な生活習慣の確立に力を入れている」の肯定率が令和5年度で80%以上。(H30 61.1%、R1 63.2%、R2 76.1%)
      - ※ 学校教育自己診断(生徒)「学校生活についての先生の指導は納得できる」の肯定率が令和5年度で75%以上(H30 47.0%、R1 46.5%、R2 57.7%)
  - (2) 進路指導計画を再修正し、1年次からのキャリア教育の充実を図るとともに、卒業後を見据えた進路意識を高めること等を通して自己実現を支援する。
    - ア 「産業社会と人間」「総合的な探求の時間(GS)」の取組み等を通して、進路目標を具体的にもたせるとともに、自己の努力目標を明確にさせる。
      - ※ 学校教育自己診断(生徒)の「将来の進路や生き方について考える機会がある」の肯定率が令和5年度で90%以上。(H30 77.9%、R1 81.1%、R2 85.2%)
      - ※ 本校独自で実施する進路実績満足度及び進路決定率(3月末)とも毎年90%以上。(「満足度」H30 93.9%、R1 91.8%、R2 91.4%「12月末現在決定率」H30 83.7%、R1 85.8%、R2 80.6%)
    - イ 資格取得の支援やインターンシップの内容充実にも努めるとともに、進学希望生徒の増加を踏まえ、計画的講習など適切な学習機会の提供を行う。
      - ※ 「漢検」等の資格取得者：合格率を維持(R2 67%)、インターンシップ単位認定者：20名程度を維持。(H30 27名、R1 15名、R2 実施できず)
- 3 安全安心で魅力ある学校づくり
  - (1) 生徒一人ひとりが自らの課題に向き合い課題を解決しようとする意欲を育み、他者を大事にして生徒同士がつながる取組みを推進する。
    - ア 生徒の学校生活満足度を高め、自分自身も他者も大事にしていく意識を育む集団づくりの取組みを一層推進する。
      - ※ 学校教育自己診断(生徒)の「伯太高校に行くのが楽しい」の肯定率が令和5年度で75%以上、「自分の学級は楽しい」が85%以上。(「高校に行くのが楽しい」H30 57.4%、R1 63.1%、R2 65.0%、「学級は楽しい」H30 67.3%、R1 72.2%、R2 76.9%)
    - イ 校内の環境及び施設設備を充実させ、部活動を活性化させる。
      - ※ 部活動の加入率を令和5年度で40%以上。(H30 38.2%、R1 33.4%、R2 33.4%)
  - (2) あらゆる教育活動を通じて、生徒の人権を大切にした指導を徹底するとともに、人権教育を計画的・総合的に推進する。
    - ア 策定した3年間を見通した計画に基づき、人権及び人権問題に関する正しい理解を深め、様々な人権問題(子ども、同和問題、男女平等、障がい等)の解決をめざした教育活動を推進する。
      - ※ 学校教育自己診断(生徒)の「伯太高校の人権教育は、あなたが学びたいことに応えている」の肯定率が令和5年度で80%以上。(H30 58.9%、R1 65.1%、R2 73.5%)
      - ※ 学校教育自己診断(生徒)の「さまざまな立場の人や自分たちの人権について学ぶ機会がある」の肯定率が令和5年度で90%以上。(H30 71.9%、R1 76.8%、R2 85.9%)
    - イ 生徒の個別の状況を把握、共有し、個に応じた適切な指導を、組織的にかつカウンセリングマインドをもって行い、SCやSSWの活用及び外部連携を図ることにより、生徒の状況の改善、学校生活の安定に努める。
  - (3) 地域等とつながる取組みを進め、さらに、外部機関、施設等との連携を深め、地域社会に貢献する意識を醸成する。
    - ア 地元和泉市や近隣の学校園等と連携する取組みだけでなく、生徒が地域の保育所や介護施設、小学校で行う取組み、外部講師を授業に活用する。
      - ※ 地域のあいさつ運動・清掃活動、保育所交流等を継続するとともに、外部施設等との連携および外部講師の活用により学習活動の充実を図る。
- 4 教職員の組織的・継続的な人材育成等
  - (1) 教職員の組織的・継続的な育成を行う。
    - ア 教職経験年数の少ない教職員について、研究授業及び校内研修の機会や分掌業務等のOJTを基本に、全教員がかかわる形で育成する。
      - ※ 学校教育自己診断(教職員)の「初任者等、経験の少ない教職員を学校全体で育成する体制がとれている」の肯定率が令和5年度で70%以上。(H30 53.3%、R1 52.9%、R2 47.8%)
    - イ 概ね10年までの教職経験年数の教職員を学校組織の中核として配置し、課題解決を意識した業務遂行等を通して、ミドルリーダーを育成する。
  - (2) 教職員の働き方を改革する。
    - ア 教職員の長時間労働を改善するため、業務全般を見直し、分掌業務の改善を図るとともに、教職員に業務の工夫・改善を促す。
    - イ 大阪府部活動の在り方に関する方針に基づき、適切な部活動の実施を徹底し、部活動による長時間勤務の縮減を図る。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和 年 月実施分]	学校運営協議会からの意見

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標 (R2年度値)	自己評価
1 「確かな学力」の育成	(1)「わかる」授業づくりと基礎学力の育成 ア 組織的な授業改善と観点別評価の試行 イ 基礎学力の定着と学習意欲の向上 (2)「主体的・対話的で深い学び」の推進 ア 協同学習の効果的活用と充実 イ 発表機会の充実、スキルの向上	(1) ア・研究授業・公開授業の積極的な実施と観点別評価の試行実施に加え、教員研修・協議による確実な授業改善及び観点別評価の徹底を図る。 ・「産業社会と人間」「総合的な探求の時間」(GS)の取組みと各教科の授業方法の連動により、「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざした授業を推進する。 イ・朝学習とGSの連動により、学習意欲の向上と、基礎学力の定着、キャリアパスポートの運用を図る。 (2) ア・GSと連動させ、グループワーク等の協同学習の効果的活用と充実を図る。 イ・GSと連動させ、生徒のプレゼンテーション能力の育成を段階的、計画的に実施する。	(1) ア・研究授業等15回以上(15回) ・学校教育自己診断(生徒)「授業はわかりやすい」の肯定率80%以上(76.9%) ・授業力向上・授業改善及び観点別評価のための研修等4回(3回) イ・独自アンケート「知識・技能が身についた」の肯定率90%以上(3年生87.7%) (2) ア・学校教育自己診断(生徒)「自分の考えをまとめたり、発表する機会がある」の肯定率75%以上(71.8%) ・独自アンケート「考える力や表現する力が身についた」の肯定率90%以上(3年生88.7%) イ・独自アンケート「プレゼンテーション能力が身についた」の肯定率83%以上(3年生81.8%)	
2 将来の目標に向かって努力する生徒の育成	(1)理解納得に基づく生活習慣の形成、規範意識の醸成に係る取組みの推進 ア 遅刻指導の工夫と授業規律の確立 イ 生徒理解にたった個に応じた生徒指導の充実 (2)1年生からのキャリア教育の充実 ア 進路目標の早期設定の取組み イ 資格取得支援とインターンシップ充実、進学向け学習機会の提供	(1) ア・朝学習を活用して目標設定、その振り返りを習慣化させることで、基本的な生活習慣について生徒の認識を高め、遅刻件数の減少や規範意識の醸成をめざす。 ・授業の大切さとともに学ぶ意識を醸成することで、授業中の私語等を減らし、授業規律を確立させる。 イ・画一的罰則によらず、生徒の状況把握、理解、共有により、生徒や保護者の思いをくみ取る生徒指導をより進めていく。 (2) ア・3年間の進路指導計画に基づき、ガイダンス機能を一新、充実させ、企業等外部の方々を活用した学習を基本に、将来の就労を意識した具体的な進路目標をもたせ、継続して努力する力を育てる。 イ・資格取得のための取組みを充実させる。 ・インターンシップの内容を充実させる。 ・進学のための指導・取組みについて、講習等を組織的、継続的に実施する。 ・勉強合宿等の内容充実を図り、参加者の増をめざす。	(1) ア・遅刻件数5,000回以下(5,617回) ・学校教育自己診断(生徒)「騒ぐ・私語する生徒なし」の肯定率40%以上(36.2%) ・学校教育自己診断(生徒)「生活規律や学習規律などの基本的な生活習慣の確立に力を入れている」の肯定率80%以上(76.1%) イ・学校教育自己診断(生徒)「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生が多い」の肯定率85%以上(81.6%) ・学校教育自己診断(生徒)「学校生活についての先生の指導は納得できる」の肯定率60%以上(57.7%) (2) ア・学校教育自己診断(生徒)「将来の進路や生き方を考える機会がある」の肯定率88%以上(85.2%) ・進路実績満足度90%以上(91.4%) ・進路決定率90%以上(80.6%) イ・「漢検」等の資格試験の合格率(67%)を維持 ・インターンシップ認定者20名程度を維持 ・勉強合宿の生徒満足度95%以上、参加者20名以上	
3 安全安心で魅力ある学校づくり	(1)生徒が他者を大事にして生徒同士がつながる取組み ア HR活動及び学校行事の充実 イ 部活動の活性化 (2)人権教育の推進 ア 様々な人権課題の解決を推進 イ 個別の支援が必要な生徒への対応 (3)地域等とつながる取組み ア 地域等との連携及び授業への活用	(1) ア・学年や学級を基本に他者を大事にして、生徒たちがつながることを意識した活動を工夫し充実させる。 ・学校行事において、生徒が企画し運営するなど、生徒のリーダーシップを育成できるよう、内容や実施方法を工夫し充実させる。 イ・校内環境や施設を整備し、部活動の活動や発表の場を充実させる。 (2) ア・3年間の人権教育計画に基づき、様々な人権問題(子ども、同和問題、男女平等、障がい等)の解決をめざした教育活動を推進する。 イ・人権上配慮が必要な生徒等について、週1回の会議及び対応検討会議(不定期)を活用し、SCやSSW、外部機関との連携を組織的に行い、個別の支援を適切に行う。 (3) ア・現行の取組みを継続し、特に中学校との連携を充実させるとともに、保育所等の外部施設、小学校等や大学・専門学校等の連携、外部講師の活用により授業の充実を図る。	(1) ア・学校教育自己診断(生徒)「高校が楽しい」の肯定率68%以上(65.0%)、「学級は楽しい」の肯定率80%以上(76.9%) ・学校教育自己診断(生徒)「文化祭は楽しい」の肯定率85%以上(81.4%)、「体育祭は楽しい」の肯定率85%以上(81.8%) イ・部活動加入率38%以上(33.4%) (2) ア・学校教育自己診断(生徒)「伯太高校の人権教育は、あなたが学びたいことに応えている」の肯定率75%以上(73.5%) ・学校教育自己診断(生徒)「さまざまな立場の人や自分たちの人権について学ぶ機会がある」の肯定率88%以上(85.9%) イ・生徒情報の把握、共有及び個別の支援計画等の検討を組織的に行う。SCやSSWを活用し、具体的な対応により状況を改善する。また、ケースについて研修を実施し、共有を図る。 (3) ア・地域、中学校等との連携行事への参加、学校独自の地域清掃活動等の実施。 ・地域、保育所等の外部施設、小学校、専門学校や大学と連携した取組みの授業への活用、外部講師の活用70回以上。(50回)	
4 教職員の育成等	(1)組織的・継続的な育成 ア 教職経験の少ない教職員の育成 イ ミドルリーダーの育成 (2)働き方の改革 ア 業務の工夫・改善 イ 部活動の適正な実施の徹底	(1) ア・ミドルリーダーに教員研修を企画させ、研修内容に合わせた授業研究や分掌業務のOJTを全体で進める。特に経験の少ない教員については、全教員がかかわる機会を設定し、教師力を総合的に高める。 イ・教職経験年数が10年までの教員を学校組織の中核として配置し、振り返りや協議の場を定期的に設定し育成を図る。 (2) ア・会議の整理、分掌業務のスリム化と効率的な引継ぎの活用等、工夫・改善を促す。 イ・部活動の活動計画の徹底を図る。	(1) ア・年10回の教員研修の実施 ・学校教育自己診断(教職員)「経験少ない教職員を育成」の肯定率60%以上(47.8%) イ・首席、分掌長や学年主任及びその候補を継続的に育成 (2) ア・委員会、分掌業務等の見直し、職員会議等の会議の回数減 ・分掌業務の引継ぎの効率化、教材等の共有化 ・時間外在校時間が長い教職員への指導 イ・部活動の活動計画の遵守・徹底 ・活動報告書に基づく指導	